

安全就業

だより



令和5年
第1号
5月発行

新型コロナウイルスが5類へ移行

今月5月8日より、新型コロナウイルス感染症の感
染症法上の位置づけが、これまでの「2類相当」か
ら「5類」に移行されました。
5類感染症移行後の感染防止対策は個人や事業者の
自主的な判断に委ねられます。

◇その場に応じたマスクの着用や

咳エチケットの実施

周囲の混雑状況など、その場の感染リスクに
応じてマスク着脱の判断をしてください。
高齢者施設や医療機関など、重症化リスクの
高い方と接する場では、マスクの着用が推奨
されます。

◇換気、

「三つの密（密集・密接・密閉）」の回避

特に不特定多数の人がいる所では、換気や人
との間隔を空けることが、感染防止対策とし
て有効です。

◇手洗いは日常生活習慣に

食事前、トイレの後、家に帰った時など
は、まず手を洗うように心がけましょう。
(ハンドソープやアルコール消毒剤の使用)

◇適度な運動、食事などの生活習慣で 健やかな暮らしを

一人ひとりの健康状態に応じて、適度
な運動やバランスのとれた食事など、適
切な生活習慣を理解し、実行することが
大切です。

発熱などの症状が出たら、

5類感染症移行後は季節性インフルエン
ザと同様の対応になります。
かかりつけ医やお近くの医療機関に事前
に連絡し、不織布マスクを着用するなどの
感染防止対策を徹底した上で受診してくだ
さい。



個人の判断



手を洗おう



適度な運動



バランスの良い食事

全国統一スローガン “ 一つまでも 働く喜び 無事故から ”

交通安全対策

令和4年の宮崎県内において、交通事故による死者数は前年より2人多い32人で、負傷者数は4245人でした。交通事故の発生件数は前年から663件減り3798件でした。

高鍋警察署管内（児湯郡5町）では、国道10号線を主要道路としていることもあり、交通量が多いことで事故が多く発生している傾向にあります。

悲惨な交通事故を1件でも減少させるため、本年度も交通安全活動への取組を行いましょう。

- ① 交通ルールを順守し、安全運転を行う
- ② 脇見・ぼんやり等の漫然運転を
追放し、緊張感を持って運転する
- ③ 歩行者優先を再認識し、譲り
合いの精神で運転する
- ④ 全席シートベルト、チャイルド
シートを正しく着用する
- ⑤ 飲酒運転は絶対にしない、させない
- ⑥ 夕暮れ時は、早めにライトを点灯し、
反射材を活用する
- ⑦ 道路の横断は、左右をよく確認して
から行い、無理な横断は絶対にしない
- ⑧ 年齢により車の運転に不安を覚えた時
には、家族や警察に相談する



（令和5年5月川南町交通安全の集い
交通安全宣言より抜粋）

草刈作業の飛び石事故

就業中の草刈機での事故（特に飛び石の事故）が全国的に多発しています。

▼ 昨年度の高額支払い事故例（全国）

▼ 駐車していた車両に傷をつけた。
高級輸入車だったため、修理代と
レンタカー代が高額となった。

【約160万円】

▼ 太陽光発電のケーブルを破損させた。

【約170万円】

▼ 流量計のケーブルに気付かず切断した。

【約250万円】

飛び石等の事故は未然に防げます。
必ず、飛散防止ネット等の設置や低速回転刃の
使用などの安全対策の徹底を図り、事故ゼロを目
指しましょう。



危ない



飛散速度

130キロ/時

飛散距離

50メートル以上

（国民生活センター調べ）

シルバー人材センター



”過信の裏に事故ひそむ 初心にもどって安全就業”

安全就業

だより



令和5年
第2号
7月発行

県内シルバーでの事故状況

令和4年度に県内のシルバー人材センターで発生した傷害事故は58件でした。近年減少傾向にはありますが、ひと月あたり3件以上は発生している状況です。屋外での作業中の事故が最も多く、30日以上入院した事例も多くあります。転倒による傷害事故が最も多く、物につまづいたり、段差を踏み外す、滑って転ぶなど不注意により発生しています。

一方で、損害賠償事故は県内で45件発生しました。賠償額の総計は500万円近くに達しています。飛散させた物で損壊させた事例が最も多く、その合計は約360万円と高額です。飛散防止ネットを設置せずに草刈作業を行い、車や家屋のガラスを破損させた事例が数多く見られます。

作業で機械器具等を使用する場合は、事前に点検と整備を必ず行いましょう。作業前には現場の総点検を行い、作業員全員で共有しましょう。安全対策を疎かにせず、傷害事故・損害賠償事故を起こさないように安全意識の徹底を図っていきましょう。

あっ!!!



蚊・ダニから身を守ろう

蚊やダニの中には、感染症の媒介をするものがおり、刺されない・咬まれないようにすることが大切です。(実際、感染症にかかり死亡する事例もあります。)

▼対策としては、
①肌の露出を少なくする。

(帽子や手袋の着用、シャツの裾はズボンに入れたり、袖も手袋の中へ入れたりする)

②明るい色の服を着る。

③虫除け剤を使用する。

(ディートやイカリジンを含むものが有効)

▼蚊を発生させないためには
幼虫が発生しそうな水たまりの除去・清掃を定期的に行う。また、下草を刈るなどして、成虫の潜む場所をなくす。

▼ダニはどんなところにいる?
民家の裏山や裏庭、畑、畦道などにも生息している。また、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息している。

▼ダニに咬まれた時の対処法は?
無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科など)で処置してもらおう。受診時には、野外活動の日時、場所、発症前の行動を伝えてください。



全国統一スローガン “安全は無理せず 焦らず 油断せず”

安全就業

だより



令和5年
第3号
8月発行

スズメバチに要注意

スズメバチが活発に活動するのは六月から十月で、中でも九月は危険な状態です。蜂の数も増え、攻撃性が高まります。刺されないためには、**スズメバチに刺激を与えないこと**が大切です。



黒い服は要注意。スズメバチは黒いものを襲いやすい習性があります。また、**ひらひらした服にも要注意**。動くものは敵だと認識します。あと、柔軟剤や香水・スプレーなど**匂いのあるものを身に付け過ぎない**ように。匂いにつられて寄ってきます。

- 万が一刺されたら、その場を静かに離れて安全を確保しましょう。そして次の手順で応急処置を行います。
- ①傷口を流水で洗い流す。
 - ②毒をしぼり出す。
 - ③ステロイド系の軟膏を塗る。
 - ④刺された箇所を冷やす。
 - ⑤**すぐに病院（皮膚科）へ行く。**



熱中症対策を万全に

高い気温と湿度に加え、無風状態や強い直射日光が原因で起こる熱中症。汗をかき過ぎて、水分や塩分などが不足すると、体温調節がうまくできなくなり、体に熱がこもって熱中症になってしまいます。

▼**こんな症状が出たら要注意**
めまいや立ちくらみ、足がつる、いくら拭いても汗が出てくる、頭痛、吐き気、強い倦怠感などが代表的な症状です。

▼**熱中症を防ぐには**

- ①こまめな水分補給、適度な塩分補給
- ②屋外では必ず帽子をかぶる
又は日傘をさす
- ③三度の食事をしっかりとることも大切
高齢者は、若い人よりも暑さやのどの渇きを感じにくく、水分補給が遅れて、気づかぬうちに脱水状態になることがあります。

▼**熱中症になったら、早めの処置が重要**

日陰や涼しい部屋へ移動して、横になる↓足を少し高く上げ、衣服を緩める↓**首筋やわきの下を氷のうや濡れたタオルで冷やす**↓水分や塩分を少しずつとる

ただし、**意識がないなど症状が重い場合は救急車を呼び、医療機関を受診してください。**



全国統一スローガン “安全は無理せず 焦らず 油断せず”

安全就業

だより



令和5年度
第4号
2月発行

作業中の事故を防ぐ

春が近づき暖かくなってくると草木が生え、草刈機やチェーンソー、ヘッジトリマーなど使用する機会が増えます。

しかし草刈機等には鋭利な刈刃がついており、使用中は高速で回転するため、慎重に取り扱わないと指や脚などに重篤なケガにつながる危険性があります。また、小石を跳ねて自動車や家の壁、窓ガラスなどに損傷を与える可能性もあります。

草刈機等を使用する際は、特に下記の点に気を付けましょう。



▲高年齢労働者に多い事故事例▼

- ① バランスを崩して墜落
- ② 視力が衰えてつまづいて転倒
- ③ 聴力の低下により警報音に気付くのが遅れて機械設備等に挟まれる、など



ミニミニコラム

▲自分の身体機能の低下を意識しよう▼

加齢による身体機能の変化に気付かずいると、危険性を低く見積もってしまい、事故や災害に結びつく恐れがあります。定期健康診断を積極的に受診したり、体力チェック等に参加し自分の健康状況や身体機能を客観的に把握しましょう。自分の体の変化を謙虚に受け止め、慎重に行動するようにしましょう。
過信や無理は禁物です。

(1) ヘルメット、保護メガネや防振手袋など、保護具を必ず装着し、事前に機器の点検を行うことから作業をしましょう。

(2) 作業をする前に現場をよく確認し、小石や枝、硬い異物などを除去しましょう。防護柵を活用するのも効果的です。

また、近くに人がいないか確認して作業をしましょう。

(3) 障害物や地面などにぶつかって起きる刈刃の跳ね(キックバック)に注意しましょう。

(4) 刈刃に詰まった草や異物を取り除く際は、必ず機器を止めてから行いましょう。

(5) 現場にいる周囲の方は、作業者が安全対策をきちんと行っているか一緒に確認し、作業中も作業者に変わったことがないかを常に意識するようにしましょう。

全国統一スローガン “安全は無理せず 焦らず 油断せず”